

平成31年度 第2回米子市廃棄物減量等推進審議会 議事録概要

- 1 日 時 平成31年5月9日（木）午後2時～午後3時05分
- 2 開催場所 米子市役所5階 議会第2会議室
- 3 出席者（敬称略）
米子市廃棄物減量等推進審議会委員 12名
飯塚委員（会長）、岡本委員（副会長）、上田委員、大江委員、大櫃委員、熊谷委員、伊坂委員、中田委員、中村委員、福景委員、矢末委員、植田委員
（小川委員、桂藤委員は欠席）
- 4 議 題
家庭廃棄物の処理手数料の額について
- 5 会議公開 公開
- 6 傍聴者数 3名
- 7 資料
資料4 対象経費の説明資料
資料5 家庭ごみ袋の一部補助（負担軽減措置）
※資料1から3は、前回資料
- 8 議事録概要

委員：収入が決まっている反面、支出を抑えていくことが大切だ。設備代は別だと聞いています。

米子市：設備本体の入れ替えとかではなく、修繕費です。

会長：維持管理という言い方が適切だ。

米子市：維持管理費は入っていますが、修繕費は入っていません。日常的な費用は含まれていますが、うん千万もするような機器の更新代については入っていません。

委員：5年平均の50パーセント負担金額の平成24年度と令和9年度を見ると、93円が変わっていない。変化がなかったら今のままだもよいではないか。

委員：この会議ではいろいろな資料を見て、市民生活に影響があるごみ袋の値上げをどうするのかというのが、この会議のいちばん大事なことだ。

担当課のほうから過去の実績と将来見込みについて説明されたなかで、多少経費が上がるかもしれないけれども、ほぼ横ばいである、大差ないよということが説明されました。

そういう状況のなかで値上げが必要なのかということを検討すれば、やはり、市民は1円でも上がったら、値上げされたという不満を持つわけだ。ただ、本当に米子市財政にとって値上げをしないとイケない状況になれば、市民負担はやぶさかではないと思うが、現状の数値を見れば、そう変化はないと。大なり小なり変化はあるが、長期的に見ても変わらないという資料を提示しています。それはやっぱり、調べたりいろいろな調査をしたりして、事務局のほうで資料を提供しているので、議論のための議論をしてもなかなか話がまとまらんとおもいます。

提示された資料から推測すれば、現状維持でもよいと思えます。市民の声は値上げはいけんよという声が多いと思えます。だから、米子市財政に大きな影響がないなら、このままで実施してもらったらよい。

委員：値上げをする理由はないと思えます。そのうえで、消費税が10パーセントになる可能性があるので、そこのところは値上げをせずに現状維持で。（「消費税はしょうがない」との声あり）

委員：50パーセント負担というのが最初からくずれています。30パーセントぐらいか。現状で市の負担があまりかからないようであれば、原則はアップしても、それが崩れたものだから、足りない部分は何とか市のほうで負担してもらえないかと要望してもよいではないか。

委員：市民がごみの減量に一生懸命協力したり取り組んでもらったら、また見直しをして下げますよと、というようなニュアンスで議会を通っています。やはり自治会全体で見れば、ごみ減量に地域で取り組んでもらっています。その証拠に、資料3の赤線グラフが微々たるものかもしれんが、市民はみんな努力をしています。やっぱりその気持ちを大事にしてほしい。私はそのことを強調したい。ごみ減量に取り組めばごみ袋が安くなるかもしれないという希望を持たせてもらって、この活動に取り組ませてほしい。この実績を大事に考えてほし

いということを特に申し上げます。

委員：この会議の最初に市長が諮問されたのは、ごみ袋の価格が今のままでいいのか審議してほしいということで、一部には、ほかの市町村と比べて米子市は高いから、値下げをしてほしいという運動の団体もあるわけで、この資料のとおりなら値上げをしないといけないということもあるわけです。あまり変化がないなら、今言ったように、市民の皆さんにごみの減量化に協力してもらってこういう状況になっています、今後も、協力を。ごみの新聞を全戸配付されますが、引き続き市民の皆さんに呼びかける必要があります。

委員：前回の会議でも言ったが、あとは伝え方ということで、今使っている1ランク下のごみ袋を使うように、ギュッギュッと入れるように、よなごみ通信にわかりやすく、イラストを入れたりして広報をしていただきたい。

会長：資料に基づいてご審議いただきましたが、本日が審議の第3回目になります。ご意見をいただいたが、ここは現状どおりでよろしいという意見が大勢であったので、市長の諮問は現状どおりでよろしいでしょうか。前回の検討が平成22年で、クリーンセンター運営の努力で経費を押さえて、現状と変わらない運営をしています。平成34年に河崎の窯の耐用年数が来るようで、そのときには100億円とかの処理経費を見直すようだが、当面、現在のままでしていただくということでしょうか。（「よい」という声あり）